

栃木県埋蔵文化財センターだより

発行 平成27年10月30日
栃木県教育委員会
宇都宮市埴田 1-1-20
TEL 028-623-3425
編集 (公財)とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫 474
TEL 0285-44-8441
FAX 0285-44-8445
URL <http://www.maibun.or.jp>

CONTENTS

○埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から
南飯田前畑遺跡・佐川野上南地区遺跡（小山市・野木町）
野高谷薬師堂遺跡、刈沼遺跡（宇都宮市）
市ノ塚遺跡（真岡市）
埋蔵文化財センター普及事業の紹介

○東日本大震災復興支援埋蔵文化財発掘調査
天化沢 A 遺跡（福島県南相馬市）
○市町教育委員会が実施した発掘調査から
落内遺跡（下野市）長者ヶ平官衙遺跡（那須烏山市）
○平成 26 年度栃木県内発掘調査一覧及びその結果
○埋蔵文化財センターからのお知らせ 常設展示室の開設について

2015
10月
やまかいど

■平成26年度栃木県内の発掘調査情報

埋蔵文化財センターが実施した発掘調査・整理作業から

1. 南飯田前畑遺跡（小山市）・佐川野上遺跡（野木町） ー縄文時代の調理場と近世の墓地ー

南飯田前畑遺跡・佐川野上遺跡はJR間々田駅から南西へ約3 kmに位置し、宮戸川東岸の台地上にあります。遺跡の発掘調査は圃場整備事業に伴うもので、昨年度は南北約2 kmの区間で5ヵ所の調査を実施しました。このうち南飯田前畑遺跡第1区、佐川野上遺跡第4区の成果を紹介します。

まず、南飯田前畑遺跡第1区では縄文時代早期（約8,000～7,000年前）の炉穴群が発見されたことが特徴的です。炉穴とは、平面形が楕円形か円形の穴で、底や壁の一部に火を焚いた痕があります。煮炊き、もしくは肉類の燻製を作るといった用途が考えられています。この時代の炉穴は栃木県内では調査事例が少なく、非常に珍しいものです。第1区では合計8基が2ヵ所に分かれてまとまって発見され、その内の1基では縄文時代早期の土器片が出土しました。本遺跡発見のものは、深さ30cmの浅いもので底面がわずかに焼け、埋土にも焼土が混ざっています。ただし、第1区ではこの遺構と同時期の竪穴住居跡は見つかっていないため、居住域の場所等不明な部分も多く、今後の調査の進展によっては縄文時代早期の居住域が発見されるかもしれません。次に、佐川野上遺跡第4区においては、人骨が出土した近世（約400～150年前）の墓坑が2基検出され、その内1基では2体分の人骨が出土しました。第4区の近辺は墓地だったという近隣の話があることから、この地区は近世以降の墓地であった可能性があります。また、これらの墓坑は方形の竪穴を掘った後に北側の壁面を奥に掘り込むという特徴的な形状をしていました。このような土坑墓の形状はあまり知られていないため、今後の調査によって類例の有無等を明らかにしていく必要があります。



南飯田前畑・佐川野上遺跡の位置



まとまって検出された炉穴



炉穴近景（土坑の底面と堆積した焼土）



2体の人骨が出土した土坑墓

2. 市ノ塚遺跡（真岡市）－古墳時代と中世の集落を確認－

市ノ塚遺跡は、真岡市高田の小貝川西岸、真岡台地縁辺にあります。平成12年から16年にかけて、圃場整備に伴い発掘調査が行われており、今回は、平成23年から25年にかけて、県道新設に伴い発掘調査が行われました。調査の結果、旧石器時代から平安時代、中世の遺構や遺物が発見されました。集落跡は、古墳時代前期初頭から平安時代まで確認できましたが、中心は古墳時代前期から後期中葉で、竪穴住居跡から多数の土器が出土しており、平成15～16年度に調査した1区と同じような集落であることがわかりました。また、中世の遺構は、掘立柱建物跡、井戸、溝跡が発見され、出土した古瀬戸、常滑の陶器や内耳土器等から、13世紀後半から16世紀初めのころの集落跡と考えられます。中でも幅約4～5m、深さ約1.5mの大溝は、直角に屈曲し木橋が架けられていた跡が見つかり、方形に巡る区画溝と考えられます。付近には高田専修寺があったため、寺院に関連した寺内の集落である可能性があります。



市ノ塚遺跡の位置



竪穴住居跡から出土した古墳時代の土器
(3世紀から6世紀頃)



直角に曲がった大溝では
木橋の柱の跡が見つっています。

埋蔵文化財センター普及事業の紹介

平成27年度 発掘調査報告会

平成27年6月14日（日）、埋蔵文化財センターを会場に発掘調査報告会を開催しました。おかげさまで、100人を超える参加者の皆さまに、前年度（平成26年度）に当センターがかかわった遺跡発掘調査の成果を、パワーポイント上映や遺物解説を交えてお知らせすることができました。

当日のプログラムは次のとおりです。

- 1 岩舟台遺跡（大田原市）
- 2 黒袴台Ⅱ遺跡（佐野市）
- 3 南飯田前畑遺跡・佐川野上遺跡
（小山市/野木町）
- 4 愛宕塚古墳（下野市）
- 5 西高椅遺跡（小山市）
- 6 東日本大震災復興支援埋蔵文化財発掘
天化沢A遺跡（福島県南相馬市）

※終了後、出土遺物の展示解説



調査報告会の様子



出土遺物の展示解説

3. 野高谷薬師堂遺跡、刈沼遺跡、刈沼向原遺跡（宇都宮市）

－宇都宮テクノポリスセンター地区の整理作業－

現在「ゆいの杜」となっている宇都宮テクノポリスセンター地区は、都市再生機構による土地地区画整理事業が実施され、宇都宮市北東、鬼怒川東の台地上にあります。この事業地内には刈沼遺跡、刈沼向原遺跡、刈沼東原遺跡、野高谷薬師堂遺跡があり、宇都宮市教育委員会による発掘調査が平成8年度から平成22年度まで行われました。

報告書が刊行されている刈沼東原遺跡以外の3遺跡について、埋蔵文化財センターが整理作業を行っています。ここでは報告書を刊行した野高谷薬師堂遺跡と現在整理作業中の刈沼遺跡、刈沼向原遺跡について紹介します。

野高谷薬師堂遺跡は、平成11年度から平成19年度まで宇都宮市教育委員会が調査を行い、室町時代～江戸時代（677～147年前）を主とする大規模な共同墓地であることが分かりました。

調査で確認された遺構は地下式坑198基、竪穴遺構14基、土坑3491基、井戸159基、掘立柱柱穴列11基、掘立柱建物跡21棟、溝80条となります。竪穴遺構は一辺2m前後、深さ50cm程度地面を掘り込んでいる遺構で、倉庫・作業場・住まい、あるいは葬送儀礼に関わる遺構と考えられています。掘立柱建物跡は当時の住まいや倉庫と考えられます。溝は80条ほど確認されていますが、このうちの幾つかは大きく一定範囲を区画する溝です。地下式坑は地面を大きく掘り込んだ遺構で、墓や貯蔵用の地下室と考えられています。お墓と考えられる長方形土坑のまわりの外側に位置しているものが多いようです。溝で囲まれた「大区画」内に墓を多くつくっていることがこの遺跡の特徴ですが、鍋などの生活道具も多く出土しており、ある一時期には住まいがあった可能性もあります。遺跡からの出土遺物では、陶磁器、内耳土器、輪宝墨書土器、かわらけ、すり鉢、香炉、火鉢、五輪塔、茶臼、石臼、砥石、鍬、伏鉦、かんざし、銭貨、柄杓などがあります。



野高谷薬師堂遺跡・刈沼遺跡の位置



刈沼遺跡出土土偶

刈沼遺跡は縄文時代後期後半から晩期（約3,200～2,500年前）の集落跡で、古くから著名な遺跡です。調査時に確認された住居跡は15軒ですが、多数のピット等からも、より多くの居住痕跡を推定することができます。ここからは収納箱1,400箱分の遺物が出土しました。日常的に用いる土器、石器とともに、祭祀儀礼や装身具として用いられる土偶や耳飾りなどの土製品、石棒等の石製品も多量に出土しています。集落の最盛期は縄文時代晩期中葉となるようです。関東地方において晩期を主とする集落跡は極めて限られており、重要な遺跡と言えます。

また刈沼遺跡で古墳時代前期（約1,700年前）の方形周溝墓が、刈沼向原遺跡で古墳時代前期及び後期（約1,400年前）の住居跡が確認されており、この地域の古墳時代を考える上でも貴重な資料となります。

東日本大震災復興支援埋蔵文化財発掘調査

4. 天化沢A遺跡（福島県南相馬市）

ー復興支援発掘調査の財団間出向を終えてー

東日本大震災の復興・復旧に伴う埋蔵文化財発掘調査の技術支援のため、福島県文化振興財団に平成25・26年度の2年間出向しました。昨年度は福島県の財団職員6名と、私を含め東京都・大阪市・山形県の財団間出向職員4名で、浜通りの南相馬市天化沢A遺跡の発掘調査を担当しました。発掘調査は、津波でさらわれ低くなった田畑に、丘陵を切り崩してその土を入れるという復興基盤総合整備事業に伴うものでした。相馬地方は古代の鉄づくりのメッカで、丘陵にはこれまでたくさんの製鉄関連遺跡が確認されています。天化沢A遺跡もそのひとつで、今回の復興事業に伴う福島県教育委員会文化財課の試掘調査で新たに発見されました。事業者側との綿密な調整の結果、遺構の密度が比較的薄いと思われる丘陵北側30,200㎡を、工事に支障のないよう12月までに発掘調査を行うことになりました。

現地へ初めて行って驚いたのは、遠くから見ると普通に樹木が生茂った山に、この地方の先人の足跡があることです。丘陵には小さな沢がたくさん入っていて、その斜面には製鉄炉や木炭窯などの古代（約1,200年前）の製鉄関連の遺構があり、その下の沢には鉄を取り出すために壊した炉壁や羽口（送風装置）、それに4.2トンにも及ぶ鉄滓（製鉄で生じた残りカス）などが発見されました。丘陵斜面を切り盛りして建てられたトンネル式煙道のカマドをもつ工人たちの竪穴住居跡などを含めたこれらの景観は、栃木県では見ることのできない迫力あるものでした。また、海が遠くに望める丘陵北端の平坦部では、たくさんの弥生時代中期（約2,000年前）の土器とともに、栃木県では発見例のない石包丁などの石器も出土しました。

このような驚きを地元の方々と話をするにより、この地方にしかない遺跡の重要性や、このような時でも遺跡を発掘し記録として残す意味などを理解していただけたかと思います。

発掘調査の技術支援のための財団間出向でしたが、福島県の方々の温かい心配りで、2年間無事任務を終えることができました。福島の復興は着実に進んでいると思われますが、原発事故によりまだ先が見えない状況があることも事実です。これからも微力ではありますが、様々なかたちで支援を続けていきたいと思っています。

（埋蔵文化財センター 後藤 信祐）



天化沢A遺跡の位置



弥生時代の石包丁



遺構確認作業



斜面につくられた竪穴住居跡



斜面に展開する古代製鉄関連遺構



製鉄遺構調査の様子

市町教育委員会が実施した発掘調査から

5. 落内遺跡（下野市）－下野薬師寺跡西側隣接地の発掘調査－

落内遺跡は、国指定史跡下野薬師寺跡の西側に位置します。

今回の調査箇所は、過去の調査で基壇建物跡が確認されたと報告されており、戒壇跡の可能性を想定した調査を実施しました。しかし残念ながら、基壇を示す遺構が確認されなかったため、戒壇跡にはなりません。しかし、この基壇建物跡と報告されている性格不明遺構のすぐ西側からは、下野薬師寺に関係すると考えられる掘立柱塀の跡が南北方向に9間分確認されました。この塀跡は1時期分で、すべての柱が抜き取られており、掘立柱塀の東側で確認された土取り穴と掘立柱塀は重複しておらず、また、丁寧に埋め戻されていることや埋め土から瓦片が出土しないことなどから、薬師寺の創建期（約1,300年前）に造られた塀の可能性が考えられます。

このことから、下野薬師寺創建期は、現在整備し表示している範囲よりもさらに西側まで広がったと考えられます。この掘立柱塀は、さらに北側へ続くと考えられることから、平成27年度は、さらに北側を調査します。



落内遺跡の位置



掘立柱塀跡（北から）



基壇建物跡といわれていた
性格不明遺構（北西から）

6. 長者ヶ平官衙遺跡附東山道跡（那須烏山市）

－古代の役所と道路の調査－

この遺跡は、奈良時代（およそ1,300年前）の古代の役所跡、都へ通じる官道である東山道跡と、これに交差するタツ街道と呼ばれる道路跡などからなっており、国史跡に指定されています。

今回は、正殿や脇殿がコの字に並んでいた政庁域の東側に隣接した場所と東山道跡、タツ街道跡の交差点付近の東山道跡、政庁域の西側に広がる正倉を区画する大溝の外側に隣接するタツ街道跡の3地点を調査しました。

政庁域の東側では、東の脇殿に平行する列状の掘立柱痕跡や掘立柱建物などを発見しました。

東山道跡では、道路幅は約6mで、道路面の改修も行っていることがわかりました。タツ街道跡は、一部破壊されていましたが約6mの道幅であったことが推測できました。

この結果、政庁域の東側も、西側と同様に掘立柱建物があり、政庁域と正倉域の間には柵列もしくは塀のようなものがあった可能性が出てきました。東山道跡、タツ街道の幅や路面状況など役所部分だけではなく、近接する道の状況も知ることができました。



長者ヶ平官衙跡の位置



政庁東側作業風景（南東から）



東山道跡断面観察状況（東から）

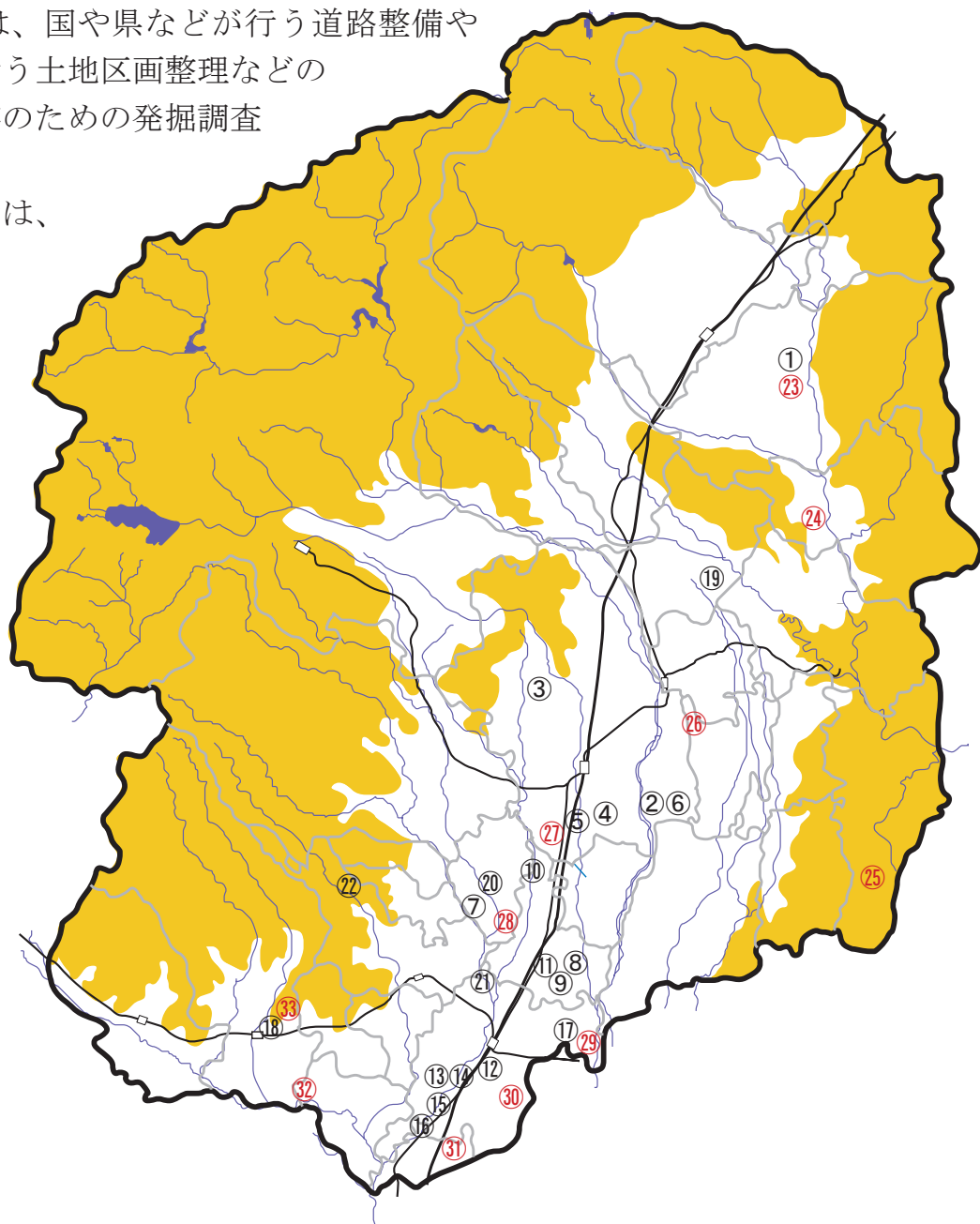
■ 平成26年度栃木県内発掘調査一覧 ■

埋蔵文化財センターは、国や県などが行う道路整備や農地整備事業、市町が行う土地区画整理などの公共事業に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

また、市町教育委員会は、市町が行う公共事業や民間開発に伴う記録保存のための発掘調査を実施しています。

さらに、県・市町教育委員会は遺跡の内容を明らかにするための発掘調査や、史跡整備のための発掘調査も行っています。

このほか、大学などによる、遺跡の内容を明らかにするための学術調査なども行われています。



◎市町教育委員会が実施した発掘調査

●記録保存のための発掘調査

番号	遺跡名	市町名	主な時代
①	岩舟台遺跡、岩舟台古墳群	大田原市	縄文・古墳
②	下西原遺跡	宇都宮市	古墳～平安
③	前田遺跡	宇都宮市	古墳・奈良
④	西刑部西原遺跡	宇都宮市	古墳～平安
⑤	茂原北原遺跡	宇都宮市	古墳～平安
⑥	鳥井戸遺跡	宇都宮市	古墳～平安
⑦	壬生城跡	壬生町	中世・近世
⑧	上三王遺跡（東地区）	下野市	弥生・中世
⑨	雲雀台遺跡	下野市	古墳～近世

番号	遺跡名	市町名	主な時代
⑩	横塚古墳	下野市	古墳
⑪	落内遺跡	下野市	奈良・平安
⑫	小山添遺跡	小山市	古墳
⑬	栗宮宮内遺跡	小山市	中世
⑭	栗宮宮内東遺跡	小山市	奈良
⑮	間々田牧之内遺跡	小山市	古墳
⑯	乙女北浦遺跡	小山市	中世
⑰	横倉戸館遺跡	小山市	古墳
⑱	堀米遺跡	佐野市	古墳・奈良・平安

■ 平成26年度栃木県発掘調査動向 ■

昨年度、栃木県内では一覧表に示した33件の発掘調査が実施されました。なかでも、古墳の発掘調査が史跡整備で2件、記録保存調査で1件、重要遺跡調査で1件と目立ちました。

平成26年度は、市町による史跡整備のための発掘調査が3件行われました。全長約124m、栃木県内最大級の前方後円墳である小山市琵琶塚古墳では、平成25年度に引き続き確認調査が行われました。墳丘括れ部の調査では、埴輪列を確認しました。あわせて、古墳の下段は地山を削り墳丘を成形したことがわかってきました。また、終末期古墳としては国内最大級の円墳と考えられる壬生町車塚古墳では、墳丘祭祀で用いられた須恵器甕の、もともと据えられていた位置を確認することができました。

学術調査では、早稲田大学により栃木市岡之内遺跡Aの発掘調査が行われました。

市町が行った記録保存のための発掘調査は18件ありました。平成25年度よりは減少傾向にあります。宇都宮市西刑部西原遺跡では古墳時代住居跡のカマド周辺から白玉が30点程まとまって出土しました。住居移転に伴うカマド神祭祀跡と考えられます。下野市横塚古墳では、再調査が実施されました。その結果、墳丘や横穴式石室の状況が明らかになりました。

埋蔵文化財センターでは11遺跡を調査しました。前年度に引き続き佐野市と小山市から委託を受け、発掘調査を行いました。佐野市黒袴台Ⅱ遺跡では、縄文時代早期～前期を中心としたムラ、古墳時代のムラ、古墳8基、中世の墓坑群が見つかりました。

小山市西高椅遺跡では、古墳時代後期の古墳を新たに発見しました。西高椅遺跡は、27年度も調査が継続されています。大田原市岩舟台遺跡では縄文時代中期～後期のムラと、円墳5基を調査しました。

愛宕塚古墳では、墳丘上に据えられていた須恵器甕が壊されたのち、古墳周溝底部に流れ込んでいく過程を確認することができ、埴輪祭祀が行われなくなる時期の造営であることがわかってきました。野木町佐川野上遺跡の調査では、中世の地下式坑が多数発見されました。

◎埋蔵文化財センターが実施した発掘調査

番号	遺 跡 名	市 町 名	主な時代
㉓	岩舟台遺跡	大田原市	縄文・古墳
㉔	鹿島前遺跡	那珂川町	古墳
㉕	芳賀郡茂木町深沢地内 確認調査	茂木町	縄文
㉖	大塚遺跡	芳賀町	縄文・古墳・近世
㉗	雀宮宿跡	宇都宮市	近世・近代
㉘	愛宕塚古墳	下野市	古墳
㉙	西高椅遺跡	小山市	古墳
㉚	横倉遺跡・横倉戸館古墳群	小山市	縄文・古墳・ 平安・中世
㉛	南飯田前畑遺跡・ 佐川野上遺跡	小山市/野木町	縄文・古墳・中世
㉜	黒袴台遺跡	佐野市	縄文・古墳・中世
㉝	堀米城跡	佐野市	中世

●史跡整備のための発掘調査

番号	遺 跡 名	市 町 名	主な時代
㉑	長者ヶ平官衙遺跡	那須烏山市	奈良・平安
㉒	車塚古墳	壬生町	古墳
㉓	琵琶塚古墳	小山市	古墳

◎その他の機関が実施した遺跡の 内容を明らかにするための発掘調査

番号	遺 跡 名	市 町 名	主な時代
㉞	岡之内遺跡A	栃木市	縄文
	調査主体	早稲田大学文学部考古学コース	

オープン

解き明かせ！
土に埋もれたとちぎの歴史

お楽しみ